

前身の工業技術研究所のあゆみ

工業技術研究所は、生産技術・システムにおける総合的な研究・調査及び教育を行い、産学官各界との連携・交流を図ることで、工業技術の向上・産業の発展に寄与することを目的として、平成8年4月に呉キャンパスに開設されました。

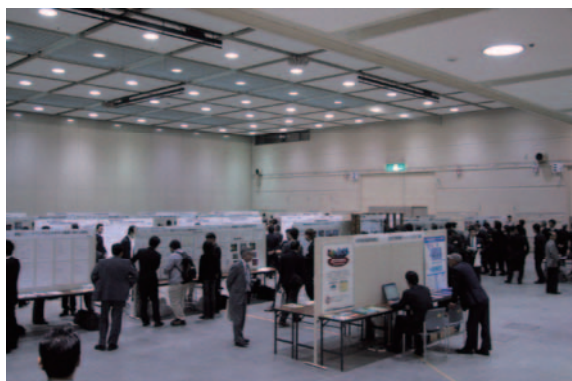
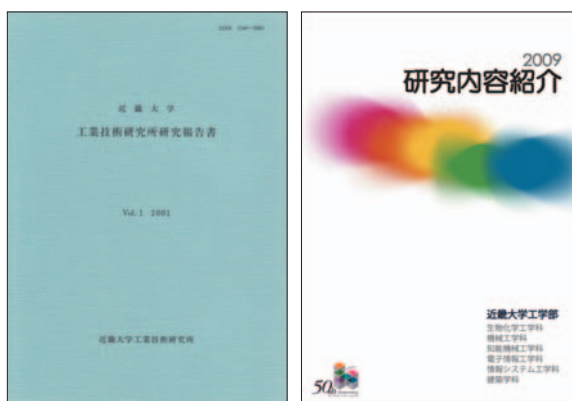
初代所長には、教授 塩田俊雄が就任し、所員12名で発足しました。開設に合わせて、まず研究所リーフレット、工学部研究業績名簿などの作成を行い、研究所の体制が整った時期でした。

平成10年4月には、第二代所長として教授 廣安博之が就任し、平成16年3月まで6年間にわたって所長を務め、この間に研究所の体制が確立されました。平成10年度の所員は14名でした。この当時から産学官連携の重要性が叫ばれ始め、平成11年2月には、大阪本部に近畿大学リエゾンセンターが開設され、当センターとの連携推進業務も統括する役割も担うことになりました。

平成12年4月には、東広島キャンパスA館に研究所事務室を開設し、研究所の業務を本格的に開始しました。平成12年度の所員は15名に増員しました。この年から各学科1名のコーディネータによる運営を開始し、研究所ホームページの立ち上げ、ニュースレターVol.1の発刊を行いました。また、毎年実施している特許セミナーもこの年から開催しています。科学研究費補助金の申請受付と申請援助など研究業務への支援も重要な業務として位置づけられたのもこの時期です。さらに、学外で開催され始めた広島中央テクノフェアなどの展示会にも積極的に出展を始めるとともに、学外の各種委員会などへの委員の派遣も積極的に行い始めました。

平成13年度には、工業技術研究所研究報告書を発刊し、研究所としての研究シーズの発信手段の一つとして重要な役割を果たしています。また、平成14年度には、工学部研究内容紹介、工学部研究者一覧も発刊し、工学部の研究者の紹介とその研究シーズを公開する役割を果たしています。平成19年度には、これらを合冊にして、より分かりやすく・見やすくした内容として新たに発刊し、好評を得ています。

平成13年11月には、工学部との共催となっている研究所の重要なイベントの一つである「研究公開フォーラム」の前身である第1回研究公開プログラムを東広島キャンパスで開催し、現在では工学部の研究シーズを学外に公開する重要な役割を担って



第2回 研究公開フォーラム

います。「研究公開フォーラム」については、平成14年10月に第2回、平成15年10月に第3回を広島県立産業会館（広島市）で開催し、多くの来場者を集めました。

平成14年10月には、工学部と地域産業界との連携を深め、技術交流や情報交換等各種事業を通じて、地域産業の発展に寄与することを目的として、研究所の所管となっている「近畿大学工学部産学官連携推進協力会」が設立されました。本協力会は、東広島商工会議所・会頭 岡田章氏を会長として、参加企業113社、支援機関24機関、個人会員88名で設立され、広島市において盛大に設立総会・講演会が開催されました。事業としては、総会・技術発表会・技術交流会を10月に、特別講演会を2月に定期的に開催し、会員間の交流を深める役割を果たしています。

平成16年4月に、第三代所長として教授 深谷保博が就任し、新たな運営組織としてグループ制を採用し、情報発信・戦略研究・研究企画・リエゾン・産学連携グループによる運営組織としました。所員は17名となり、各学科ほぼ3名の教授から構成され、グループごとに運営を行いました。この時期からは、特許に関する業務を拡大し、特許申請のための審査機関として「技術評価委員会」を設立し、本部リエゾンセンターとの連携が取れる体制となりました。平成15年に加入した広島 TLO への技術移転を行いました。この間、「研究公開フォーラム」は、平成16年10月にふくやま産業交流館（福山市）において第4回を開催し、多くの来場者を集めました。平成17年10月には、工学部にメディアセンターの開所をうけて第5回、平成18年には第6回を開催し、テーマを絞った研究シーズの公開の形を採りました。産学官連携推進協力会事業、この時期からさらに拡大した産学官連携に関するフェアへの出展についても積極的に参加し、研究所も安定期を迎えました。

平成19年4月に、第四代所長として教授 京極秀樹が就任し、これまでの事業を引き継ぎ、「研究公開フォーラム」は、平成19年10月には、学外での開催とし広島市で開催しました。産学官連携推進協力会に関しては、平成19年には協力会のホームページが、株式会社広島情報シンフォニーの協力により大幅にリニューアルされ、ホームページを通じた情



設立総会



技術講演会



第5回 研究公開フォーラム

報発信だけでなく、会員間の相互交流も可能になりました。

平成 20 年度にさらなる飛躍を期して、社会連携とともに、研究体制を強化するための組織に大幅に変更し、所員 22 名で 4 センターの構成としました。平成 19 年度まで実施してきた産学官連携事業を推進する部署として、中国経済産業局より客員教授 隅田誠をセンター長として迎え、他 1 名の所員と 2 名のスタッフからなる社会連携センターを設立しました。研究体制は、戦略的研究プロジェクト研究センター・自動車技術研究センター・建築環境研究センターの 3 センターとし、地域密着型の次世代基盤技術開発を推進する体制としました。

平成 21 年度には、工学部創設 50 周年を記念して、10 月に「研究公開フォーラム・特別講演会」を広島市で盛大に開催いたしました。

また、文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択され、自動車技術研究センターを中心に「地域連携による次世代自動車の研究」を平成 21 年度～25 年度の 5 年間の予定で開始しました。平成 22 年 3 月には、「次世代基盤技術研究所・研究棟」を竣工し、この年度をもって 14 年間の「工業技術研究所」としての幕を閉じました。

この間、各界からの多大なるご支援を賜りました。改めてお礼申し上げます。



工学部創設 50 周年記念
研究公開フォーラム・特別講演会